

歴史と自然の中で受け継がれてきた水辺の文化を「水上に浮かぶ柳川の舞台」として構成します

柳川の掘割は、低湿地の雨水排水路に源を持ち、長く地域の自然と一体となった生活空間、また四季折々の祭の舞台となって人々を育ててきました。

北原白秋が故郷柳川を掘割の水と光の風景に託し「水の構図」として残したように、私たちは、自然と歴史の上に生き生きとした人々の活動を表現する「水上に浮かぶ柳川の舞台」を提案します。

この文化会館は、これまで展開されてきた水上の劇場空間を未来へ継承し、芸術文化活動による市民の新しいコミュニティの舞台となります。



■記憶に残る掘割のうらかな風景

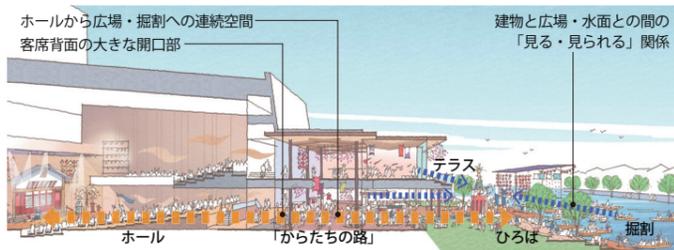
柳川の掘割と建物が一体となって形づく劇場空間

掘割に沿った広場・共用ロビーからホールへと連続する劇場空間の形成

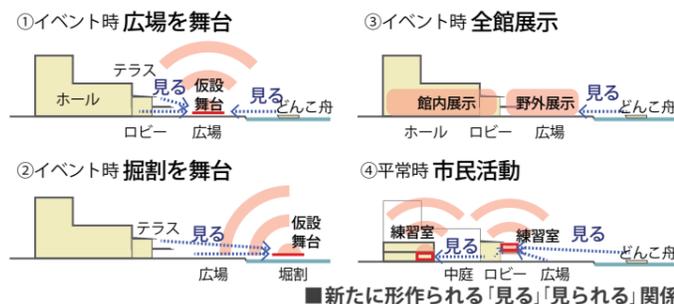
- 掘割と平行に配置した共用ロビー「からたちの路」に対し、大ホール、イベントホール等の各施設が面する構成とします。
- ホールから掘割まで連続するスペースが新しい劇場空間を形作ります。大きな開口部を持つ平土間のホールから広場・掘割への連続空間、また2階テラスを含め建物と水面との間で新たな「見る・見られる」関係を形作ります。
- 練習室等の市民活動施設は、共用ロビーに面する「創作の中庭」のまわりと掘割側に配置します。訪れる人の目に触れ、日常的に使いやすい施設となります。

掘割側の高さを抑え、周辺に配慮した高さの計画

- 建物は掘割側の高さを抑えた計画とします。東側の住宅や南側の病院からも十分な距離を確保します。



■堀辺の劇場空間が施設に浸透してにぎわいを形成



木のホール・白壁のホールが作り出す柳川の風景

共用ロビー「からたちの路」は掘割に大きく開き、屋根の細やかな木の構造を見せています。掘割側にはロビーを通して優しい香りの木で包まれた大ホール、町の記憶を呼び起こす白壁のイベントホールが浮かび上がります。



■掘割におもてなしの風景を演出



■掘割と一体となった賑わいの景



■緑と光がふれあう水辺の散歩路

■主役になって遊べる”子どもの舞台”

柳川の記憶を引き継ぐ建物構成

宮永地区の武家屋敷の空間構成を引き継ぐ配置

- 掘割がめぐらされた柳川の住宅においては、掘割とオープンスペース、居住空間とが柳川特有の関係を形成し、水辺と生活を深く結びつけてきました。この関係を継承し、建物と掘割の生き生きとした空間を計画します。



まちと共生する文化会館

周辺の交通と居住者に配慮した駐車場・交通計画

- 駐車スペースと主要構内道路を明確に区分することで、駐車待ちの滞留車を敷地内で処理し、周辺道路へ渋滞を引き起こさない計画とします。
- 東側通路には隣接住宅の出入専用の車線を確保します。

東西両側に顔を持ち、まちをつなぐ施設配置

- 二つのエントランスを結ぶ共用ロビー「からたちの路」を施設の骨格とし、東側だけでなく西側にもサブエントランスを設けます。
- 西側のエントランスは西側からの散策動線を迎え入れ、将来の建物の顔をしつらえます。

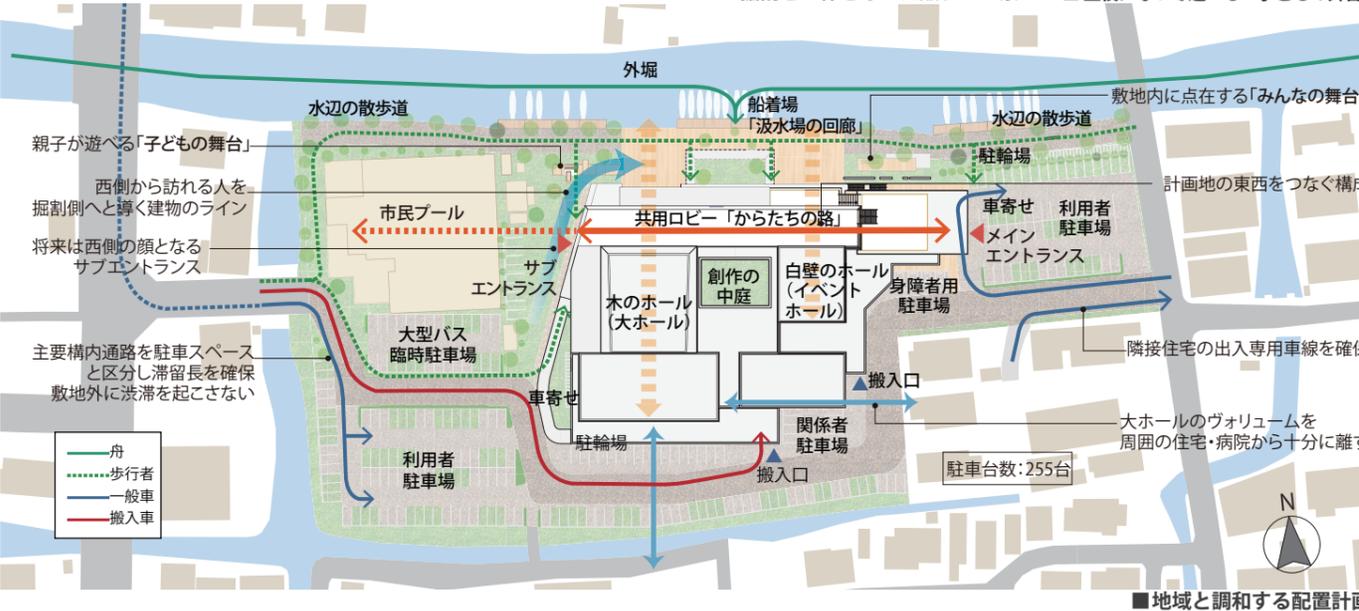
劇場空間としてのランドスケープデザイン

- 建物内にとどまらず掘割を含めた外構全体を劇場空間としてとらえ、舞台と観客席、舞台美術といった要素をランドスケープのアイテムとして計画します。



■庇が迎える東側エントランス

■西側にもわかりやすいエントランス



様式第16号
1. 施設計画

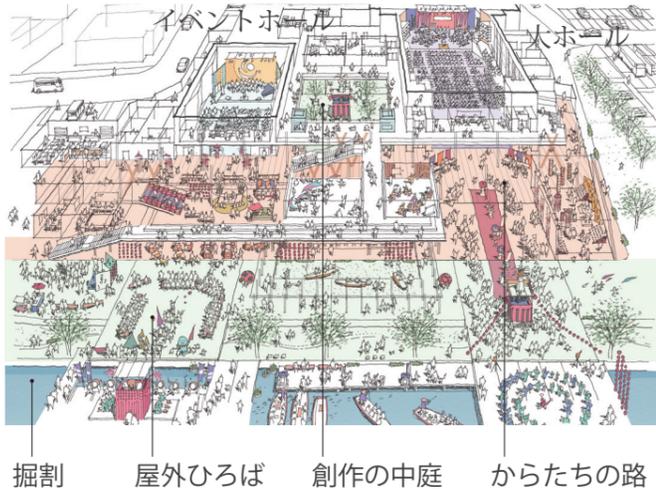
柳川市民を迎え入れる「つくり・そだて・ふれる」空間

柳川市民文化会館の基本理念に沿った豊かな創造・教育・鑑賞の場として

- 「からたちの路」を中心に豊かな芸術文化を鑑賞・体験し、自ら創作する情熱を誘発され重奏する空間ゾーニングとします。

柳川の四季の祭りと市民芸術を継承・創造するための「堀辺の稽古場」

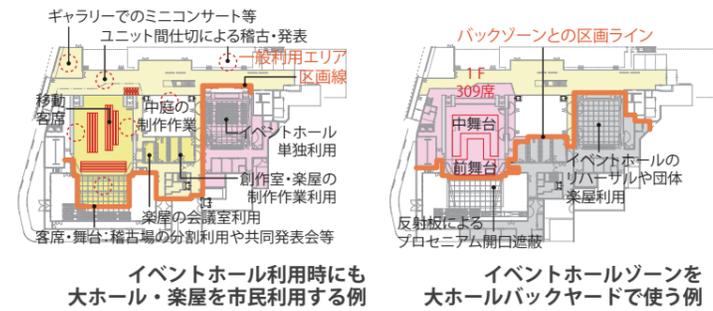
- 祭りの稽古等、掘割側への賑わいの風景の一部とします。2つのホールにおいても使用しない時は稽古場として利用し、表現空間の実感を育てます。



多彩な催事レイアウト

施設内外のスペースを最大限に利用し市民に使いやすい区画運用と可変性

- 中庭の配置と施設内の区画を適切に行うことで、多彩な催事と日常時のスペース有効利用を行い、賑わいと稼働率を上げることが可能にします。
- 施設内や掘割を含む外部空間を最大限に有効利用できるように、可動システムやユニット等をレイアウトに活かした運用パターンを提案します。

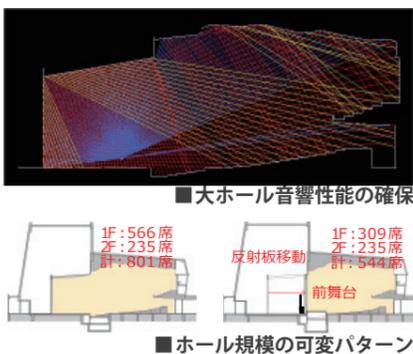
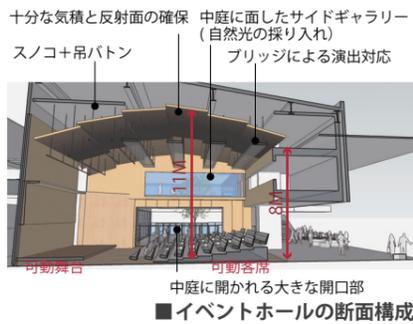
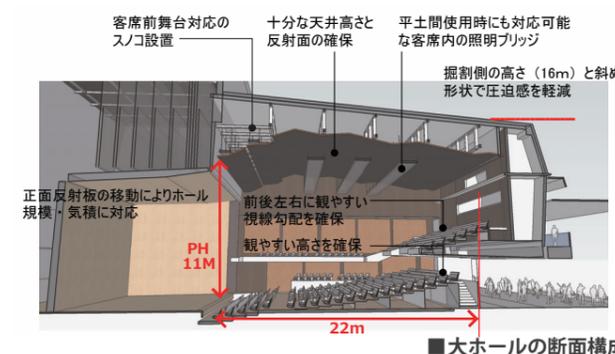


豊かな音響と演出可能性

さまざまな演目の要求対応する

大ホール・イベントホールのスペック

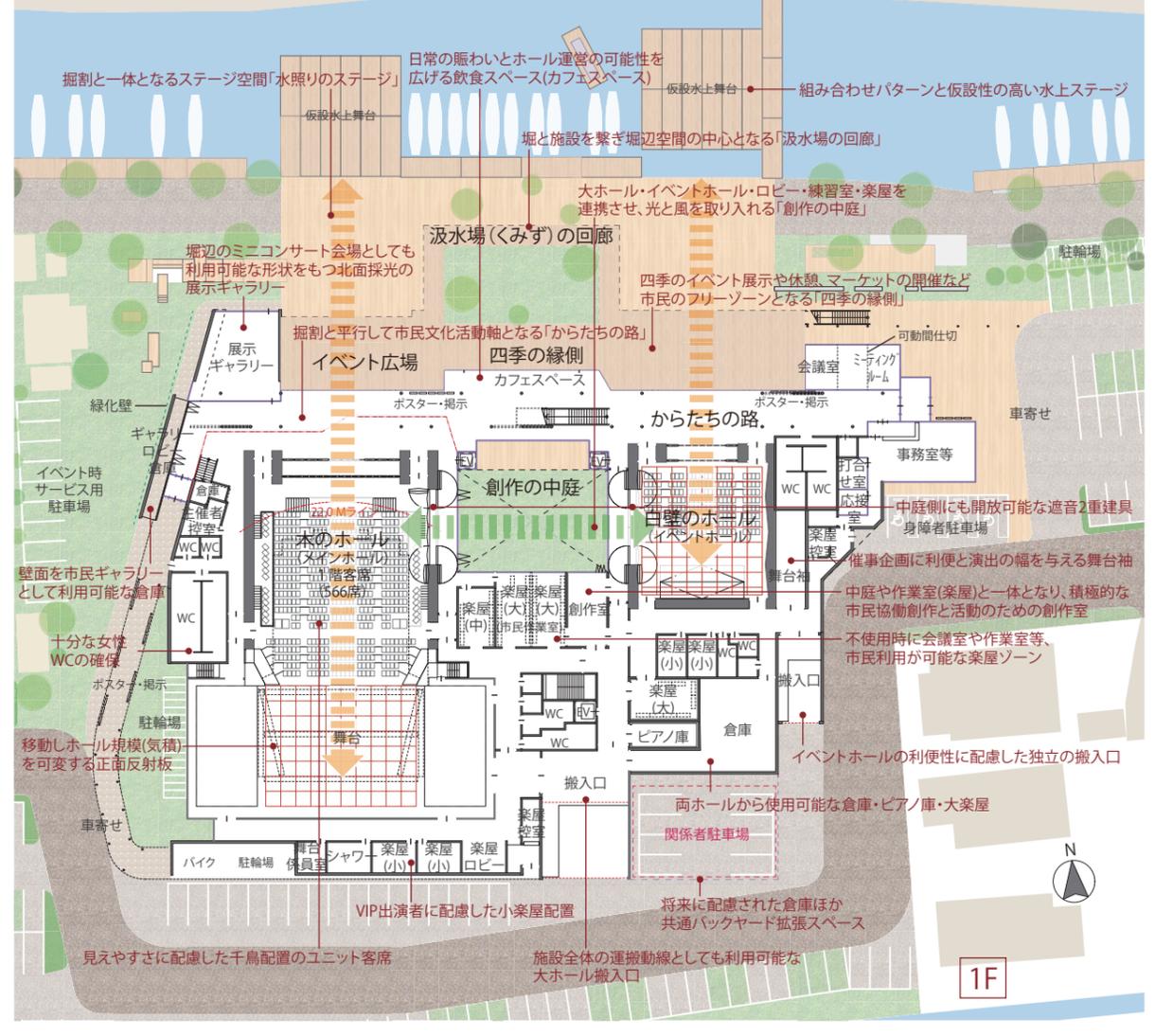
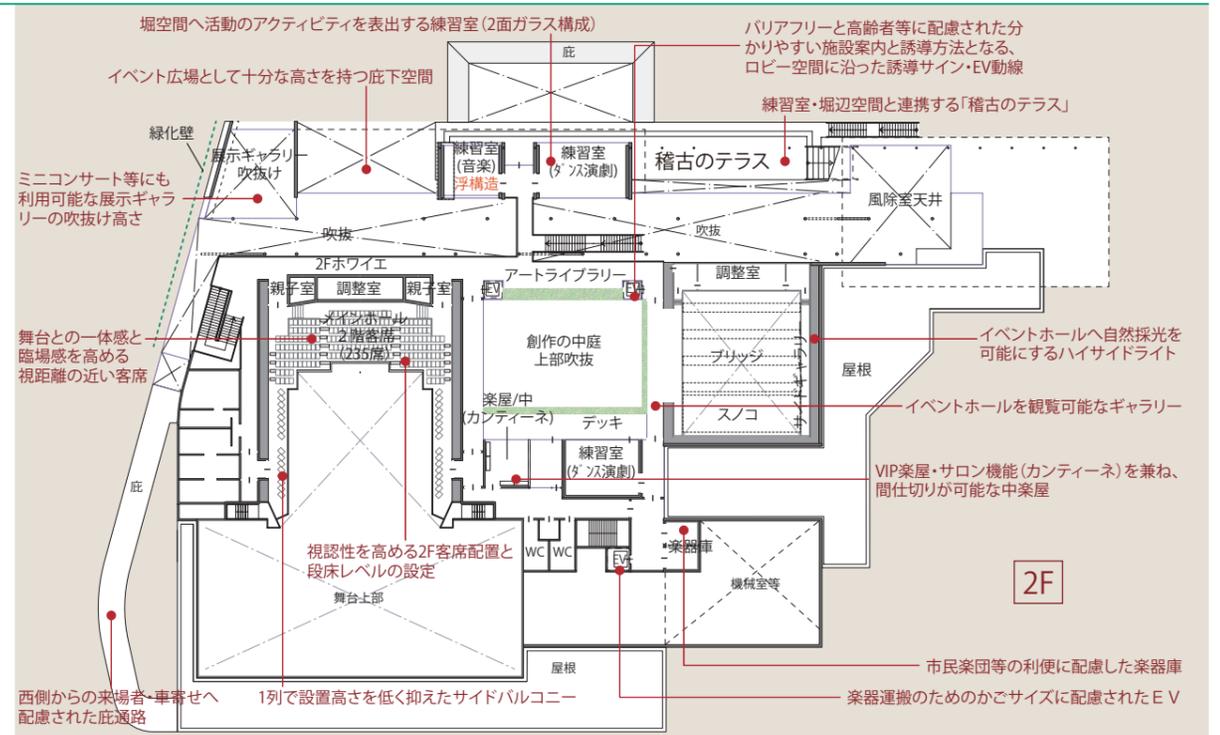
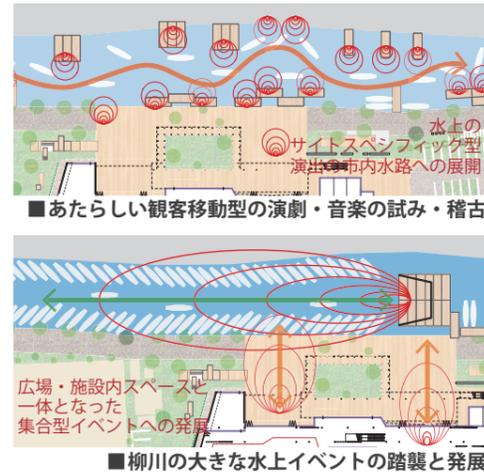
- ホールは音響・吊物の性能に必要な空間高さとお興行を可能な限り確保し、豊かな音響と舞台の演出を実現します。
- 内装仕上げは木質系を主に用いながら反射・吸音の性能をバランス良く配置し、可動要素を用いて演目の演出と意匠上の効果を図ります。



新たな堀辺の空間演出

あたらしい水辺の劇場空間としての関係構築と演出・展開へ

- 掘割には水辺に浮かぶ劇場としての新たな表現、演出の為のしかけや工夫が可能となる仮設ステージ等の水上の設えを想定します。
- どんこ舟を客席とし、観客・舞台が移り変わりながら場所ごとの演出を展開する市街劇・市街音楽の実演など、実験的試みの稽古場としても想定します。



3. コストの低減

柳川の伝統と自然条件を生かしたライフサイクルコストの低減

木を用いた構造をローコストで実現

鉄骨と木のハイブリッド構造で柳川らしいおもてなしの空間を形成

- 鉄骨梁による安定した三角形の水平トラスに木製の座屈止め/火打ち梁を重ねあわせて「からたちの路」の屋根を構成します。
- 柳川まりの刺繍を思わせる、あたたかく人々を迎え入れる空間となります。

木質利用補助金による効果的なコスト削減

- 大規模建築物の木質化への補助事業を活用し、あたたかな空間づくりとコスト削減を図ります。



架構の工夫と建物の軽量化による躯体・杭・掘削土量の削減

ゾーンに応じた適切な構造形式

- 遮音性能を必要としない外壁は、ALCパネルや中空押出成型セメント板等の乾式工法とし、建物の軽量化と労務費のかかるコンクリート躯体工事費の低減を図ります。
- 共用ロビーは別棟扱いの鉄骨・木混構造として耐火構造を回避、建物重量を軽減し杭負担を軽減します。
- 音源となる部屋は適切に隔離することで、遮音構造にかかるコストを低減します。

杭工事量を低減する工夫

- 周囲の諸室部分は、ホールから持出しの吊形式で荷重を分担し杭を用いない基礎計画とします。平屋部分は耐圧スラブとして地中梁躯体・根切量・杭本数を削減します。

必要な長い杭を省エネメリットに転換

深い支持層と高い地下水位を生かす地中熱利用

- 杭が長く水位が高い地質条件を生かし、年間を通して一定の地中熱を杭を通して取り入れて共用ロビー部分の空調熱源に利用します。

適材適所の空調方式とパッシブエネルギーによるライフサイクルコスト縮減

ゾーンの特性に応じたベストミックスの空調計画

- 部屋の用途及び利用率により、「大空間空調」「個別空調」「自然エネルギー利用空調」の3つのゾーンに分け、利用形態に応じた最適な空調方式とします。

自然エネルギー活用による共用ロビー居住域の快適化

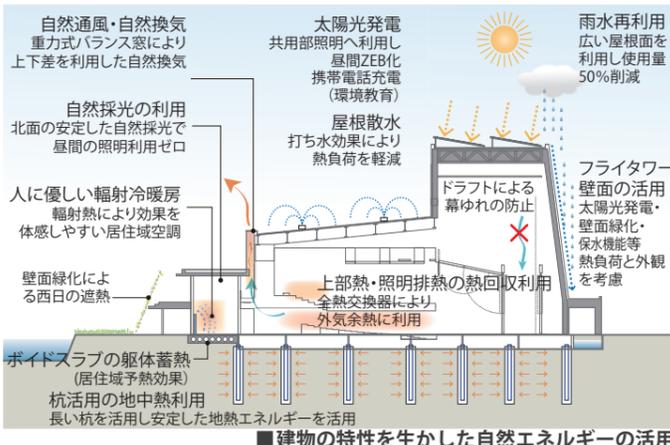
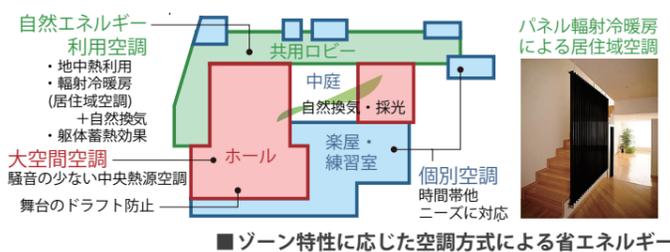
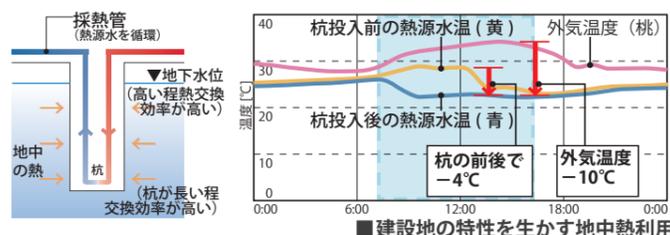
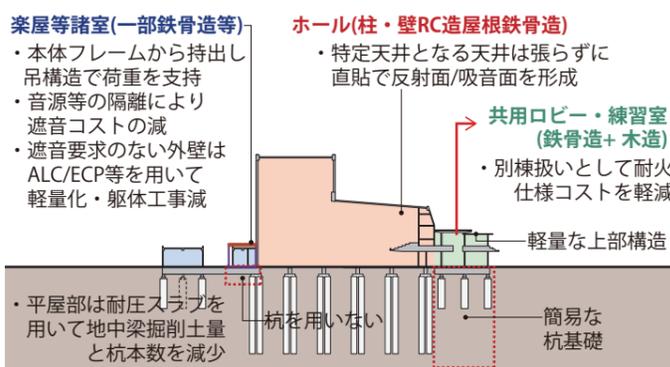
- 地中熱利用の輻射冷暖房、躯体蓄熱、自然通風など外部との環境変化が小さい穏やかな空調計画とします。

建物の特性を生かした自然エネルギーの活用

- 屋根の広さや高さのある大空間など建物の特性を生かした環境技術を、コスト負担が少ない手法で導入します。

メンテナンスコストを少なくする工夫

- ガラス面には容易に清掃できる足場を設ける他、庇を設け雨埃汚れが付きにくい計画とします。
- ノーワックス床材などの採用により維持管理費の削減に努めます。



4. 周辺環境 5. その他の提案

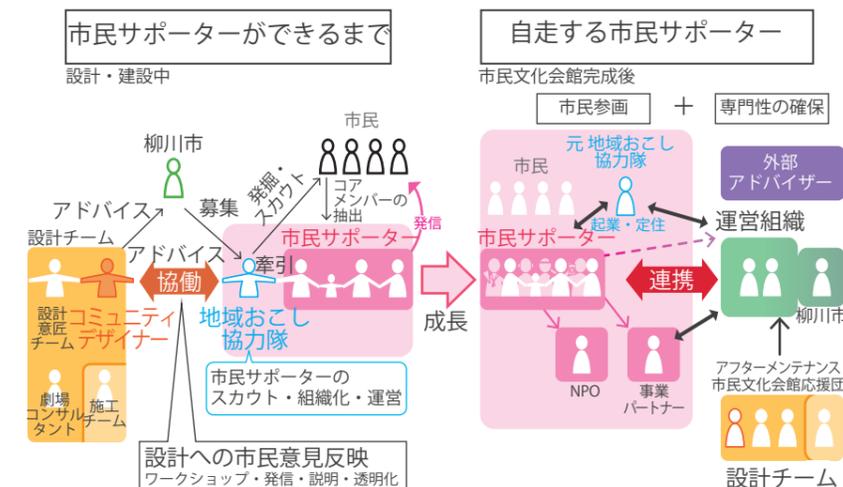
完成した建物を脈動させるしくみの提案

市民参画の中心「市民サポーター」を組織する (5. その他の提案「本事業に有益な提案」)

市民活動を牽引する「市民サポーター」組織化のしくみを提案します。市民サポーターは、市民コミュニティの中心となり設計への市民意見の反映やイベントの企画などを通して愛される施設づくりに寄与します。建物の完成後は市民や運営組織と連携して市民文化会館に日常的な賑わいをもたらす中心的な存在となることを想定します。

市民サポーター組織化の具体的方法

- 市民サポーターの組織化と運営の中心的人材として、柳川の芸術文化を活性化することを任務とした「地域おこし協力隊」の新たな募集を提案します。設計チームには地域活性化や人材育成に実績を持つ「コミュニティデザイナー」を加え、市の担当部署と協力隊をバックアップします。



地方創生を担う人材育成と学びの場

- 地域おこし協力隊は、柳川市民から人材を発掘し市民サポーターを組織し運営します。
- 市民サポーターは、様々な分野で地域リーダーとして育ち独立し活動します。国が推し進める地方創生の企画力と実行力をもつ人材を育成することに繋がります。

柳川市民の新しい「ひろば」 (4. 周辺環境「回遊性や賑わい創出と向上につながる提案」)

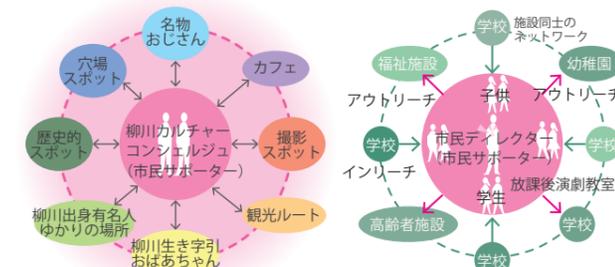
共有ロビー「からたちの路」と堀割沿いの「四季の縁側」は、市民パートナーが中心となり様々な活動や交流が活発に行われる「ひろば」として計画します。市民の稽古や創作活動を施設内のあちこちに生み出しサポートするムードな器具や小スペースを提案します。



ネットワークの拠点 (4. 周辺環境「近隣の施設との機能連携」)

活動が生み出す多様なネットワーク

市民パートナーを中心とした活発な活動により新市民文化会館は柳川市内外の関連施設や場所をネットワークする拠点となります。



例) 伝統文化・サブカルチャーの繋がりが生まれる (Example: Connections of traditional culture and subculture are born)
例) 表現活動を用いた教育の拡張と施設連携 (Example: Expansion of education using creative activities and facility cooperation)

防災意識を培う市民活動 (5. その他の提案)

上述のような市民活動の活発化と見える化、ネットワーク構築は、災害時の一時避難所としての周知度を高めます。建物は、平土間のホールやロビーを一時避難所として活用できるように自然換気設備や代替汚水貯留槽などを備えます。

ゆつらーとネットワーク

- レンタサイクル・ボートの発着場を設けます。徒歩や自転車や船で回る陸路と水路の織り成しが、柳川ならではのスピード感で近隣施設を連携させます。また街の堀割沿いに市街舞台を点在させることで水のネットワークに音楽や演芸のネットワークが加わります。

